

【研究名】

急性期脳卒中患者における誤嚥性肺炎発症率の推移（Stroke Unit 稼動前後の比較）

○ 研究の概要

脳卒中患者において嚥下障害（飲み込みの障害）はよくみられる合併症の一つです。脳卒中発症からの期間により、嚥下障害の症状は大きく変化します。嚥下障害により肺炎を起こすことがあります。肺炎は呼吸機能の障害だけでなく、リハビリテーションの開始が遅れ、全身の筋力低下をひきおこし、身体機能の回復の遅れにもつながります。そのため、嚥下障害の症状の経過を正確に把握することが重要となります。

リハビリテーション科では嚥下障害の症状を把握するために、X線透視下で造影剤や造影剤を加えた模擬食品を食べていただき嚥下機能の検査する嚥下造影検査を施行しています。今回、我々は脳卒中科にご入院された患者さまのカルテより嚥下造影検査の結果を採集し、嚥下障害の症状の経過を調査します。

この研究により、将来的に脳卒中により嚥下障害を持つ患者さまに対して発症からの期間に応じた適正な治療食の提供につながるだけでなく、嚥下障害による肺炎の合併の予防につながると考えています。

○ 対象となる患者さま

2008年1月から2009年4月までに脳卒中科にご入院された脳血管障害の患者さまのなかで、リハビリテーション科医が嚥下障害と診断し嚥下造影検査を2回以上受けた患者さま

○実施場所

川崎医科大学附属病院リハビリテーション科実験室、外来診察室

○個人情報の保護について

データは本研究以外の目的で使用することはありません。学会発表など公開する際には個人が特定されるようなデータ（個々の名前、イニシャル、年齢、入院時期、検査所見、画像など）は一切伏せて公表します。使用したデータはパスワードが必要なデスクトップコンピュータで保管します。

※データの取り扱いに対する拒否は可能です。対象となる患者さまで、データ使用を拒否される方は、お手数ですが下記のお問合せ先までご連絡ください。

○研究期間

倫理審査承認後～2010年3月31日

○お問合せ

メールアドレス meta@med.kawasaki-m.ac.jp

主任研究者

岡山県倉敷市松島 577

川崎医科大学附属病院 リハビリテーション医学教室

臨床助教 新井 伸征

Tel. 086-462-1111